



編集兼発行  
公益財団法人 小笠原協会  
東京都港区海岸1-12-2  
竹芝客船ターミナル2階  
電話 03-3432-4921  
FAX 03-3432-4487  
振替貯金口座(郵便)  
00190-9-64610  
みずほ銀行芝支店  
普通 3242428

**第99回 小笠原諸島振興開発審議会が  
開催されました(22.06.17)**  
審議会委員 小笠原協合理事  
小暮実

令和4年6月17日、第99回小笠原振興開発審議会が開催され、今回は、初の国交省とWEBによるハイブリッド開催となり、冒頭、国土交通省の加藤政務官及び東京都の黒沼靖副知事よりご挨拶がありました。

議事では、国土交通省の担当者より令和3年度に小笠原諸島の振興開発に関して講じた施策の説明に続き東京都より定住人口や農林漁業などの目標設定状況と進捗状況について説明がありました。

その後、新たに就任した渋谷委員(小笠原村長)から小笠原諸島における公共施設の利用状況について、返還以来50年以上が経過し学校や庁舎などの公共施設等の建築延べ面積は増加したものの、返還後整備してきた施設が更新時期を迎えており今後の再整備コストは増加すること、また父島における土地利用計画について小笠原復興計画から振興計画、そして現在の振興開発計画に至る経過の説明がありました。

これら施設老朽化対策や土地利用計画の在り方などの発言を皮切りに出席委員全員による質疑応答となり、各委員からは、小笠原における再生可能エネルギーの導入状況や航空路の検討を始め農業振興の課題、防災やエコツーリズムの有効性、定住人口対策や若者の就労対策を支援することなど多岐にわたる質問があ

りました。

協会代表委員である私からは、母島農地を有効活用した農業振興や現在三世四世の代となつている硫黄島など旧島民の視点も忘れずに振興開発計画を策定してほしいということをお願いしました。最後に、池田委員(小笠原村議会議長)から、小笠原の特殊性として住宅問題の重要性に鑑み、公営住宅整備や島内インフラの老朽化対策などについて、次期計画においても盛り込んで欲しいとの発言により

質疑応答が終了しました。

続いて、小笠原諸島振興開発審議会の当面の進め方に関し、国交省より令和6年3月に期限切れを迎える小笠原特措法の延長に向けたスケジュール等についての説明があり、最後は青柳・国土政策局長から「昨年、小笠原に行つてみて各施設の老朽化を目の当たりにした。航空路を始め島民生活を支えるインフラ整備は重要であり、関連予算の増額を図っていく。また再来年の特措法延長に向けても最大限努力していく。」との発言により、審議会が閉会しました。

**第11回 小笠原航空路協議会の開催について**

東京都総務局行政部  
振興企画課 小笠原振興担当

本年7月12日に「第11回小笠原航空路協議会」を開催しました。本協議会は、国、都、村で構成され、小笠原諸島と本土間の航空路開設について検討を進めるに当たり、関係者間の円滑な合意形成を図ることを目的としています。

以下、第11回協議会の内容を基に、都の検討状況等について報告します。

**1 小笠原航空路に関する令和3年度調査結果**

①航空機の開発状況等調査  
洲崎地区において、短い滑走路で運用可能性がある、「ATR42-600S」というプロペラ機と、「AW609」というティルトローター機の開発状況等について調査を実施しました。

この航空機は、飛行機とヘリの機能を併せ持つため、国内で導入するに当たっては、法令整備が必要となる可能性があります。現在、アメリカの連邦航空局の型式証明を申請中であり、メーカーは、2022年末に、型式証明を取得することを目指しているとのことです。

②気象調査  
気象調査は、滑走路の位置や方向の検討に必要な基礎資料を得ることを目的に、令和元年度より実施しており、洲崎地区の陸上定点に観測機器を設置し、風向・風速、視程、雲高などを観測しています。

③環境調査  
環境影響評価に向けた現況調査として、父島周辺海域や洲崎地区周辺における海生哺乳類及び水中音に係る調査を実施しました。

調査結果として、ハシナガイルカ、ミナミハンドウイルカ、ザトウクジラが父島周辺海域に広く分布していることや洲崎地区の北側では他の地点に比べ船舶音が多く出現していることなどを確認しました。今回の調査結果については、今後、環境影響評価において、工事等により発生する

水中音が海生哺乳類の生息域や行動にどのような影響をもたらすかをシミュレーションする際の基礎資料として使用します。

**2 小笠原航空路に関する令和4年度調査事項**

今年度は、航空機の開発状況等の情報収集を行うとともに、運航事業者の知見等を得て小笠原への運航可能性に関する詳細な検討を継続します。また、パブリック・インボルブメントを着実に実施するため、世界遺産委員会との事前調整等を踏まえた実施内容を検討します。

想定される航空機に対応した洲崎地区の飛行場施設については、自然環境への影響等を踏まえ、引き続き、配置や構造・工法を検討します。

気象調査については、今年度も引き続き実施するとともに、洲崎地区の波浪・流況を計測する海象調査も実施します。

環境調査では、環境影響評価手続の実施に向けて、これまで実施していないサンゴの白化やオニヒトデ害などの調査を実施し、環境配慮書案を更新するとともに、外来種侵入リスクを検討するため、外来種検疫について海外の先進的な取組事例を調査します。

**3 世界遺産委員会への対応状況**

昨年7月、政府は、遺産の保全状況等を報告する「定期報告」を世界遺産委員会に提出しました。日本を含むアジア・太平洋地域にとっては10年ぶりの報告となります。小笠原航空路は、「遺産に影響を与える要因」に該当するため、この報告の中には航空路に関する内容も含まれており

アジア・太平洋地域における世界遺産条約の締約国から提出された「定期報告」は、今年6月の第45回世界遺産委員会において提出結果が報告される予定でしたが、委員会自体の開催が延期となっております。

また、「定期報告」の提出に合わせ、昨年7月、世界遺産委員会に対して、これまでの小笠原航空路の検討状況を報告したところ、10月に同委員会から返書をいただきました。

返書には、世界遺産委員会の諮問機関である国際自然保護連合(IUCN)のレビューが記載されており、報告書の提出に対する謝意とともに、次のようなコメントがありました。

- ・父島の洲崎地区は他候補地を検討した結果選ばれたものと理解
- ・IUCNが小笠原諸島の顕著な普遍的価値を保護することの重要性を踏まえ、こうした開発に大きな注意を払っている
- ・開発には、侵略的外来種の侵入を防ぐための厳格な措置を伴う必要
- ・プロジェクトによる影響は遺産の普遍的価値への影響評価を含むアセスメントで評価されるべき

今後、世界自然遺産である小笠原における航空路の開設については、世界自然遺産登録が決議された際の要請事項やIUCNのレビューを十分に考慮しながら検討を進めていきます。

**小笠原村主催 硫黄島訪島事業を実施**

6月18日から19日の一泊二日で、小笠原村主催による令和4年度硫黄島訪島事業が「おがさわら丸」を利用して、

実施されました。硫黄島訪島事業は毎年実施されてきましたが、過去4年間はコロナ感染の影響等により中断しており、今回は5年振りの実施となりました。

そこで、今回は、村民だよりの報告に加え、渋谷村長の式辞および中学生による誓いのことばを掲載します。

当訪島事業では、硫黄島への上陸はできませんでしたが、好天のなか硫黄島島民平和記念墓地公園の近くをゆっくりと航行し、洋上慰霊祭を実施しました。また、南硫黄島および北硫黄島の周囲も航行しました。



硫黄島を背に、集合写真(提供:写真家・渡邊英昭氏)

かつての硫黄島は、1,100人余りの島民が暮らし平和な島でしたが、戦争によって荒廃し、さらに旧島民の帰島も許されない現状にあります。小笠原村では旧島民の皆さまの心情に報いるため、おがさわら丸による上陸と宿泊を伴ったゆとりある硫黄島訪島事業の早急な再開に向けて引き続き努力されるとコメントしてあります。

【参加者内訳】総勢164名  
旧島民38名、硫黄島協会7名、父母中学生(教員含む)65名、小笠原高校生(教員含む)34名、その他関係者20名

**渋谷村長式辞**



摺鉢山を前に、村長の式辞(提供:写真家・渡邊英昭氏)

本日、ここ硫黄島沖にて洋上慰霊祭を挙げるにあたり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

戦前、硫黄島は南国の恩恵を存分に享受しながら、一千百人余りの島民が農業・漁業を営みながら豊かに、そして穏やかに暮らしていました。そんな平和な地は、太平洋戦争の激化により、本土防衛の最前線となりました。戦況が悪化した昭和十九年の夏、軍属として徴用された十六歳以上の男性百三名を残して、島民は本土へ強制疎開させられました。

翌年の二月には米軍が上陸して、激しい戦闘の末、日米両軍合わせて二万八千人もの尊い命が失われました。軍属として島に残った島民も、八十二名がその若い命を失いました。

明治期の入植以来、幾多の困難を乗り越えて築いてきた「故郷」は廃墟と化し、島民は強制疎開により引き裂かれ、返還から半世紀が過ぎた今も尚、旧島民の帰島が叶わない状況が続いております。

このような状況を受けて、当村は平成9年度からおがさわら丸による「硫黄島訪島事業」を実施し、旧島民が熱望していた「ゆとりある墓参り」を実現して参りました。しかしながら島の隆起や新型コロナウイルス感染症等の



硫黄島を前に、中学生

中学生による誓いのつば (一部割愛)

硫黄島の学習を始める前までは、歴史の授業で日本が負けたことを知っていてアメリカの原爆という圧倒的な兵器を前にしてすぐに降参したの

問題により、上陸に関しては平成二十九年から、訪島事業自体も令和元年より実施が叶わない状況が続いておりました。ようやく再開となった本年

令和四年六月十九日 小笠原村長、渋谷正昭

だと思っていました。私達は家族や周囲の大人から戦争についてこういったことを聞いていました。「戦いに巻き込まれて亡くなった人や苦しむ人がたくさんいた。」

ました。それほど過酷で苦しい戦いだったのだと思います。アメリカ軍に降伏するよう言われても、日本軍は上官に厳しく言われていたため

南海の遺産 小笠原村役場総務課 セーボレー孝 達と再会し、お互いの往來が再開した。17年、震災直後に「励ましの手紙」を書き、中学3年生にな

小笠原諸島の日本返還が話題になっていた1968年4月、東海新報に「小笠原島民はオラが友だち」という見出しの記事が載った。それまで「中吉丸」の漂着先はハワイ、ルソン島、母島とされていたが、この記事はこれらの説を否定

「私と小笠原」第9回 小笠原協会 参与 横瀬 邦雄 今から50年前の昭和47年4月に小笠原支庁に、赴任しました。

母島小中学校のグラウンドでは、母島返還祭が開催された。実行委員会の皆さんが中心となり、舞台などの会場を作り夜店も出ました。

2022 小笠原訪問ツアー 再案内 ※参加費(乗船券のみ)の料金が決定しました。 ツアー実施期間 令和4年10月31日(月)から11月5日(土)までの5泊6日

# 第51回「全国硫黄島民の会」が開催されました

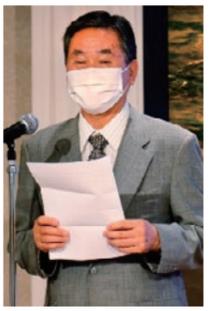
令和4年9月11日(日)午前11時から川崎日航ホテルにて、51回目の全国硫黄島民の会が開催されました。コロナ禍の中でしたが、51人の方々が参加されました。

正面スクリーンには「第51回全国硫黄島民の会」が映し出され、三部形式で会は進行されました。

第一部は、定期総会として開会、寒川藏雄会長の挨拶で始まり、5年振りに開催された墓参(洋上慰霊祭)が、スクリーンで紹介、続いて、渋谷正昭村長から、今回の全国硫黄島民の会へのビデオメッセージが紹介されました。



その後、小笠原村東京連絡事務所の椎名裕太主査、小笠原協会渋谷井信和会長が挨拶、続いて寒川会長から小笠原・母島中学生と小笠原高校生への講和と感想文が紹介されました。



第二部では、沖縄・硫黄島合同慰霊祭が行われ、寒川会

長はじめ参加者全員が献花されました。

最後の第三部では、会食をしながらゲストを紹介、恒例の佐野克己氏による「フーテンの寅さん」など和やかに会は進みました。なお、芥川龍之介賞受賞作家、滝口悠生さんが参加、激戦地となった硫黄島に生きた人々の言葉を紹介した著作「水平線」のサイン会も実施。また、今年8月に硫黄島で収録した映像をもとに制作した「VR硫黄島」



を会場で紹介、Googleを介して立体感のある画像に旧島民の参加者は感動されておりました。

最後に全国硫黄島民の会、副会長であります持丸寿美子氏が閉会の挨拶をされ、来年、令和5年9月10日(日)の再会を期して、終了となりました。

今後この全国硫黄島民の会が益々発展されることを祈念いたします。(写真提供、写真家・渡邊英昭氏)

## 「全国復帰っ子オンライン交流会」の経緯とこれから

沖縄県復帰っ子連絡協議会 代表 前泊美紀



沖縄は今年5月15日、日本復帰50周年を迎えました。私も沖縄県復帰っ子連絡協議会は、その記念企画の一つとして、沖縄と同様に復帰・返還を経験した小笠原、十島村(トカラ列島、奄美をオンラインでつなぐ「全国復帰っ子オンライン交流会」を開催しました。(協力・日本島嶼学会)

沖縄では、日本に復帰した1972年に生まれた子のことを「復帰っ子」と呼びます。私達「復帰っ子」は、折に触れ大人達から復帰当時の話や沖縄の将来への期待を語られる機会が多く、沖縄の復帰

と未来を意識して育った人が多いように思います。そのような私達が、沖縄の節目に生まれた復帰っ子として、歴史を学び未来を考えようと、沖縄復帰35年にあたる2007年に結成したのが、沖縄県復帰っ子協議会です。

復帰を経験した世代から学び、復帰っ子が未来へ向けて発信するシンポジウムや勉強会などを開催し、職種や出身地域の多様なメンバーで交流を深めてきました。

県内を主な活動の場としてきた協議会主催のオンライン交流会ですが、実は、私と奄美の同志が20年来温めてきた思いが実現したのもあります。

沖縄復帰30年を前にした2001年、私は地元のケーブルテレビ局に就職。復帰の歴史を伝える中で、奄美、小笠原、十島村が沖縄と同じく米軍施政権下を経て復帰を経験したことを知りました。

奄美群島は1953年に復帰。米軍基地が残り「道半ば」とも言われる沖縄の復帰とはその経緯は異なりますが、双方の復帰を比較し交流することで「復帰の歴史を後世へつなぐ意義を学びたい」と、奄美復帰50年の2003年に奄美と沖縄の「復帰っ子座談会」を名瀬市(現奄美市)で開催。

以来、復帰記念日の12月25日には、可能な限り祝賀訪島するようにになりました。

沖縄と奄美に「復帰」の歴史にこだわる人がいて、交流が始まった。小笠原や十島村にも、同じような思いを持つ人がいるかもしれない。「経緯は異なれど同じく復帰・返還を経験した地域をつなぎたい」。奇しくも、奄美で出会った同志は、奄美復帰50年に四地域の合同写真展を仕掛けたとのこと。かくして「日本復帰っ子大会」は、私達が思い描く「夢」となりました。

そうして、返還40周年を迎えた小笠原へ2008年7月に渡島。まず魅せられたのが、ポニブル。琉球弧と似て非なる紫紺の海の色。明るく乾いた島の風。そして、日系島民の強制引き揚げの歴史から、小笠原では「復帰」ではなく「返還」であることを知りました。その折りは、返還記念式典に参加し、雑誌「島へ」の寄稿取材では、多くの方々に大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

あれから14年。沖縄復帰50年の節目に、ついに「全国復帰っ子オンライン交流会」を開くことができました。折しもコロナ禍の経験からオンライン手法を活用できたことが、実現の鍵になりました。

オンライン交流会での小笠原グループの発表詳細については、「小笠原」第237号に委ねますが、琉球弧の「復帰

と小笠原の「返還」の違いと、父島、母島、硫黄島のそれぞれの歴史が語られたことが印象的でした。

父島の菊池康彦氏からは御祖父、お父様のご活躍を通じたお話しから当時の方々の返還、帰郷への熱い思いを、母島の折田五十二郎氏、前田豊氏からは母島復興の先人の苦労や農業を通じた沖縄への眼差しを知ることができました。

全国硫黄島民3世の会の西村恰馬会長からは、未だ島が叶わぬ島の歴史と会の活動、課題を知ることができたことに加え、若い世代が島の歴史を受け継ぎ担っていることを心強く思いました。

また、小笠原協会の森田裕一理事から、小笠原の民間定期船がかつては十島、奄美そして沖縄にも就航しており、それぞれの復帰の喜びを載せた船であるというエピソードが披露され、船が四地域を結んだ不思議な縁を感じました。



2代目定期船「父島丸」 S48.04 ~ S54.03 初代定期船「椿丸」 S47.04 ~ S48.03  
かつて「父島丸」は「浮島丸」として那覇へ、「椿丸」は「第一照国丸」として、十島、奄美群島へ就航していた

交流会は、私達の「夢」の実現でありましたが、今後10年は続けた交流のスタートとなりました。来年は、小笠原諸島返還55年、奄美群島復帰70年を迎えます。今後は、それぞれの節目に加えて、自然、産業や米軍施政権下の生活、移行期の統治機構など様々なテーマを通して、交流を深めていきたいと考えています。その交流が、それぞれの地域の未来に役立つものとなり、末永くお付き合いできれば幸いです。

その他の地域では、沖縄から復帰っ子連絡協議会が、復帰後も残る米軍基地など構造的な問題が残る現状や、観

光が牽引して発展した県経済の歩みなどを紹介。奄美群島の日本復帰運動を伝承する会は、群島民の99・8%が署名して復帰が実現した「平和闘争を貫いた」復帰運動の中で、「子ども達も多く関わったことが奄美の特徴」と話しました。

十島村からは、復帰した1952年当時、奄美大島の高校生だった日高重成氏が、故郷の復帰により密航船での帰郷を余儀なくされた困難な青春時代を振り返り、十島村が復興開発特別措置法の適用対象とならなかったことに触れ、「奄美とトカラ列島は一体」と述べ復興策の必要性を提言しました。

交流会は、私達の「夢」の実現でありましたが、今後10年は続けた交流のスタートとなりました。来年は、小笠原諸島返還55年、奄美群島復帰70年を迎えます。今後は、それぞれの節目に加えて、自然、産業や米軍施政権下の生活、移行期の統治機構など様々なテーマを通して、交流を深めていきたいと考えています。その交流が、それぞれの地域の未来に役立つものとなり、末永くお付き合いできれば幸いです。

任されました。その後、臨時理事会を開催し、佐藤豪介氏が常務理事に選任されました。なお、5月および6月の役員会議は2年ぶりの対面での開催となりました。

### 公益財団法人小笠原協会 役員

評議員 池田 望 石井 正則 稲垣 政孝 菊池 武博 後藤 乾一 佐藤 洋美 寒川 藏雄 杉浦 浩 鈴木 高弘 中村 益美 矢田 章 若林 和彦 津井 信和 佐藤 豪介 岡部 一郎 小暮 実 渋谷 正昭 田代 義一 谷川 浩也 森田 裕一 若澤 美義 小嶋 俊幸 鈴木 茂

会長 津井 信和 常務理事 佐藤 豪介 理事 岡部 一郎 小暮 実 渋谷 正昭 田代 義一 谷川 浩也 森田 裕一 若澤 美義 小嶋 俊幸 鈴木 茂

監事 鈴木 茂

新しく選任された役員

【新任評議員】 後藤 乾一

【新任監事】 小嶋 俊幸

略歴 小笠原村村長

略歴 元小笠原支庁総務課 元東京都総務局行政部 振興企画課長

略歴 元小笠原支庁土木課 元東京都都市計画局技監 矢田 章

略歴 小笠原海運株式会社 取締役営業部長 佐藤 豪介

略歴 元小笠原支庁総務課 元東京都総務局行政部 振興企画課長 渋谷 正昭

略歴 小笠原村村長 小嶋 俊幸

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

略歴 東京都総務局行政部 小笠原振興担当課長 前評議員 水野 勇 前理事 森下 一男 前監事 大河原丈晴

皆様ありがとうございます

（令和4年5月1日から令和4年8月31日まで）

個人賛助会費

Table listing names of individuals who contributed to the fund, organized by amount (e.g., 100,000 yen, 50,000 yen, etc.).

Table showing weather statistics for September 1st (current) and August (previous year) in Ogasawara, including temperature, precipitation, and population data.

小笠原のファンを増やそう
小笠原協会賛助会員
ご加入のお願い

賛助会員の皆様には、大変お世話になっております。当協会は、小笠原諸島の旧島民の方々の帰島支援や機関紙等の発行、交流ツアー開催、イベント出展などにより広く全国の皆様の小笠原諸島へのご理解を求め、小笠原村の振興支援の活動を進めています。これらの活動は賛助会員の皆様方の会費収入に支えられており、深く感謝申し上げますとともに、引続きのご支援を願います。

また、新たな皆様にも、小笠原ファンづくりと協会の活動の趣旨をご理解いただき、賛助会員へのご入会をお願いしています。
小笠原を愛する方、興味をお持ちの方、ご家族、ご友人など身近な方々に賛助会員へのお誘いを切にお願い申し上げます。
入会は、インターネットで当協会HPのトップ画面から「会員登録」→「賛助会員になるには」をご覧ください。
(http://www.ogasawarak.org) 電話(03-3432-1492)でのお問い合わせやお申込みも行っていただけます。(入会申込書の送付も可能)

赤坂保太郎(十万円)
熊沢 淳也(二万円)
株式会社ナショナルランド
株式会社共勝丸
株式会社オー・シー・エフ
株式会社ドラムエンジニアリング
株式会社小笠原整備工場
株式会社小笠原支店
七島信用組合小笠原支店
二口(一万二千元)
有限会社小笠原支店
株式会社共勝丸
一口(六千元)

お詫びと訂正
前号(令和四年七月一日号)にて新規入会者として掲載させて頂いた皆さまは次の方のお名前間違っていました。
誤・酒井絵平 正・酒井聡平
お詫びして訂正いたします。

計報
謹んでご冥福をお祈り
申上げます。
長田 耕吉様 93歳
令和4年1月29日ご逝去
大村出身
鈴木 光雄様 82歳
令和4年9月1日ご逝去
父島在住

小笠原航路時刻表 (令和4年10月~令和5年3月)
Table with columns for departure/arrival times, months, and destinations (Tokyo, Ogasawara, etc.).

さあ！母島へ行こう
母島への航路(ホエールライン) (令和4年10月~令和5年3月)
Table with columns for departure/arrival times, months, and destinations (Ogasawara, etc.).

◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります
◎問い合わせ先 小笠原海運株式会社 ☎03-3451-5171
◎問い合わせ先 伊豆諸島開発株式会社 ☎03-3455-3090